



湯川スミ賞
世界に広がれ みんなの輪

愛媛大学教育学部附属小学校 六年
板野 沙彩

特賞

「手話との出会い」

朝日学園朝日塾小学校 二年
中野 陽菜

わたしは、手話が少しできます。はじめてわたしに手話を教えてくれたのは、ほいくえんにかよっていた時の、ほのちゃんというお友だちのお母さんでした。ほのちゃんのお母さんは、耳にしようがいがあって、小さな時からまったく耳がきこえないのだそうです。でもわたしのお母さんは、ほのちゃんのお母さんとよく話をしています。わたしはふしぎでしかたありませんでした。

「どうしたら、わたしもお話ができるの。」

「とお母さんにきいたら、

「ほのちゃんのお母さんの目を見て、大きな口をあけてゆっくりお話をしたら、ちゃんとお話できるよ。」

と、教えてくれました。それからほのちゃんのお母さんを見つけたときに、ほいくえんであったことをいっぱい話してあげて、とってもなかよくなりました。ほのちゃんのお母さんは、あいさつやものの名まえの手話をいろいろ教えてくれました。うたも手話でちゃんとうたえることを教えてくれました。わたしは、さいしょ、耳がきこえない人がお母さんをするのはとってもむりなことだと思っていたのですが、ほのちゃんのお母さんは、

すごく楽しそうに、しっかりとほのちゃんをそだてています。ほのちゃんもすごくしあわせそうで、お母さんが大好きです。いつも二人は、ニコニコえがおです。わたしはそれを見て、とってもふつうの家ぞくなんだと思いました。

世の中には、歩くことができない人や、目の見えない人など、体にしよういがある人がたくさんいるのだそうです。そうゆう人は、とくべつな人だと思っていました。ほいくえんの中でほのちゃんやほのちゃんのお母さんといっしょにしていると、すごくしぜんです。ちよつと話し方などをくふうするだけで、何もこまったことはおこりません。

それに手話はすごいと思います。わたしは、えいごをべんきようしていますが、外国の人と話をするのはとってもむづかしいです。でも手話は、英語がわからない人でも外国の人と話ができるそうです。手話はことばを話さなくても、自分の気もちがあいてにつたわるのです。なんだか、まほうみたいにしてきです。手話でうたをうたうと、とても心がこもってきます。これからは、手話を教えてもらって、わたしの気もちをたくさんの人にたたくていきたいです。もつとたくさんの人が手話をならって、耳にしよういがある人も、ない人も、いっしょに会話ができて、心がつうじあう世界になつていたらいいなあと思います。